

令和7年度 自己評価計画書

石川県立錦城特別支援学校

重点目標	具体的取組	担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判断基準	判定基準	備考
(1) 授業力と専門性の向上	① <授業力の向上> 「新たな教師の学びの姿」を踏まえ、各自が学校研究を推進し、深い学びへの授業改善を行う。	研究課 全学部	教師が各々の関心に合わせ、グループを作り、研究を行うことで新しい研究スタイルの理解が進んだ。深い学びを意識して、発問や問い返しを含め様々な視点から授業力の向上を意識した取組を行う必要がある。	【努力指標】 研究会や研修会を通して深い学びにつながる工夫等について学び、授業展開等を工夫改善している。	主体的に研究会や研修会に参加し、深い学びにつながる授業改善について理解を深め、授業力が向上したと感じる教員の割合。	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 教員アンケート
	② <専門性の向上> 社会に開かれた教育課程を目指し、児童生徒の特性や能力に応じ、確かな学びに繋がる授業展開や各教科の指導の充実を図る。	教務課 全学部	学校公開や授業参観で公開授業の目標や年間指導計画における位置づけなどを掲示した。各教科の指導内容表に基づいた年間指導内容の検討を重ね、各教科の指導の充実につなげていく。	【努力指標】 年間指導計画や個別の指導計画に児童生徒に応じた各教科の指導目標を設定し、適切に評価している。	指導内容表や学習指導要領をもとにして、年間指導計画や個別の指導計画を作成し、教科指導の充実に努めている教員の割合。	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 教員アンケート
(2) キャリア教育の推進	① <プログラムの活用> 錦城版キャリア教育プログラム（改訂版）を活用し、家庭と連携し個々のキャリア発達を促す取組を実践する。	支援課 各担任	昨年度の取組で、学校だけではなく家庭でもキャリア発達を促す取組を行うことができた。今年度も引き続き取り組むことで、家庭でもキャリア発達を意識した取組をいっそうが定着させていく。	【努力指標】 個々のキャリア発達につながる具体的な内容を家庭で取り組んでいる。	キャリア教育プログラムの内容【社会で生きる力】（係活動・お手伝い）を理解し、家庭でも取り組んでいる保護者の割合。	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	6月・11月 保護者アンケート (取り組みカード)
	② <進路支援の充実> センター的機能を発揮し、地域の小中学校や保護者への研修会等を継続し、進路支援や相談の充実を図る。	支援課	昨年度の取り組みでは「研修内容に満足できた」の回答が多く進路支援に関する研修や相談のニーズの高さを感じた。今年度は、進路や発達に関する研修会を引き続き行い、地域のニーズに合わせた内容を企画していく必要があると考える。	【満足度指標】 参加者が進路や発達に関する研修会に参加して、内容に満足している。	進路支援や発達に関する研修会等の内容に満足している参加者の割合。	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは工 夫改善	7月・11月 参加者アンケート
(3) 安心・安全な学校づくり	① <健康・安全・防災に関する教育活動の充実> 危機管理マニュアルの見直しをはかり、防災教育に関する授業や行事等を計画的に行う。	指導課 保健課 各担任	大規模災害に備え、防災に関する指導はより重要性を増し、児童生徒自身が防災に関する意識を高めていけるよう、家庭と連携した指導を積み重ねていく必要がある。また、加賀市の避難所指定に伴い、大規模災害に備えた適切な避難行動がとれるように校内の環境整備を行う必要がある。	【成果指標】 安全点検を見直し、災害への備えを意識した環境整備に努める。 【満足度指標】 危機管理マニュアルをもと、児童生徒が適切な避難行動がとれるような防災教育を行い、保護者にその内容を周知している。	校内の安全点検において災害への備えを意識した環境整備や改善に努めている教員の割合。	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 教員アンケート
					学校での防災学習や災害対策がわかり、授業参観等でその指導内容に満足している保護者の割合。	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	7月・1月 保護者アンケート
(4) 業務の効率化の工夫	① <業務の効率化と環境改善> 分掌業務のデジタル化と共有化を推進し、各部・各課がマニュアルやスケジュール等をもとに業務の効率化や平準化を目指す。	教頭 各課 全学部	分掌業務のデジタル化が進み、会議資料や配付文書等のペーパーレス化が定着してきたが、学校規模に応じた分掌業務の在り方を検討し、さらに業務改善と効率化を推進する必要がある。	【成果指標】 分掌業務等について具体的な方法やアイデアを生かして業務改善に取り組み、業務の効率化を行っている。	効率化や平準化についての具体的な方策を3つ以上考え、協働して業務改善を図った部署の割合。	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 各部署アンケート